

令和7年度 市内小中学校における 「かんきょうノート」の取組について

【大和市環境学習支援事業 報告書】



○地球温暖化を防ぐため、日本と大和市は、温室効果ガスの排出量（本報告書では「二酸化炭素排出量」と呼びます）を、2030年までに2013年度に比べて46%減らすことを目指しています。

○大和市の家庭における年間の一人当たりの二酸化炭素排出量は 1,175kgで、全国の1,265kgより少なくなっています(ともに2022年)。

○本市で2030年目標を達成するには、市内家庭の一人当たりの年間の二酸化炭素排出量を692kgへと、483kg減らす必要があります。

(以上、1ページをご覧ください)

○夏休みに、大和市内の市立中学校全9校の3,421人と市立小学校2校の143人が、一週間「かんきょうノート」により節電などの「環境にやさしいライフスタイル」に取り組みました。

(2ページをご覧ください)

○今回の一週間の取組を1年間続けると、家庭の二酸化炭素排出量を一人当たり約 230kg削減できることとなります。

○「2030年までに483kgを減らす」という目標のうちの半分近くが、この夏の取組を市民全員で取り組むことで、実現することとなります。

○一人一人にとっては小さな日々の取組でも、その取組が多くの人に広がることで、途方もなく見える二酸化炭素排出量削減の目標の達成が、現実のものとなります。

○私たちの暮らしにも無理のない形で、地球とやまを将来に受け継いでいくためにも、まずは一人一人が日々の小さな取組を行っていきましょう。

(以上、4ページをご覧ください)

○生徒・児童やご家族の皆さんからは、様々な感想やコメントもいただきました。日々の頑張りが二酸化炭素排出量の削減につながるのだという喜びや、地道な取組の積み重ねが大きな成果を生み出すことへの驚きが伝わってきました。一方、酷暑の中でエアコンの使用を控えるのは難しいなど、率直な悩みもいただきました。

(詳しくは12～15ページと18～19ページをご覧ください)

目次

第1章 背景と取組の概要

1. 背景	1
2. 「かんきょうノート」によるこれまでの取組の経過	2
3. 令和7年度の実施状況	3
1) 中学校	3
2) 小学校	3

第2章 取組結果

1. 中学校・小学校の取組のまとめ	4
2. 中学校の取組結果	5
1) 取組項目と取組の評価方法	5
2) 中学校 9 校の取組のまとめ	6
3) 各中学校の取組	7
4) 項目別の取組状況	11
5) 生徒の感想・コメント	12
6) 家族の感想・コメント	14
3. 小学校の取組結果	16
1) 取組項目と取組の評価方法	16
2) 取組のまとめ	16
3) 項目別の取組状況	17
4) 児童が感じたこと	18
5) 家族の感想	18
<コラム> 樹木の CO ₂ 吸収量の算定について	19
4. 今回の見直しと今後の課題	20
1) 中学生版について	20
2) 小学生版について	20

第1章 背景と取組の概要

1. 背景

人類は18世紀の産業革命以降、石油や石炭などの化石燃料をエネルギーとして大量に使うことで、二酸化炭素などの「温室効果ガス」の排出量を急速に増やしてきました。温室効果ガスの増加により、世界の大気の気温が上昇したことにより、記録的な猛暑や集中豪雨、大型台風、熱中症などの健康への影響、農業や漁業など食料への影響など、様々な影響が顕著になっています。

こうした地球温暖化による影響を抑え、将来の世代に地球を引き継いでいくため、日本をはじめとする世界各国は、温室効果ガスの排出量を削減することを目指しています。日々の生活を送りながらも、無理のない形で節電などによる省エネルギーを行うことや、太陽光発電など石油や石炭を使わない「再生可能エネルギー」の利用を広げることなどにより、持続可能な社会を皆で作ることを目指しています。

このために日本と大和市は、「温室効果ガスを2013年から2030年までに46%削減する」ことを目指しています。

大和市の「家庭部門」の全体と市民一人当たりの「二酸化炭素排出量」(※)は、2013年、2030年(目標)、そして最新の集計である2022年で、それぞれ表1のとおりです。

表1 大和市の「家庭部門」の全体と市民一人当たりの二酸化炭素排出量

	2013年	2022年	2030年(目標)
大和市の「家庭部門」の二酸化炭素排出量	324,940トン	285,670トン	175,467トン
人口(2030年は推計)	231,000人	242,986人	253,640人
市民一人当たり二酸化炭素排出量	1,407kg	1,175kg	692kg

483kgの削減が必要です。

市と国の2022年の集計によると、大和市の「家庭部門」の一人当たりの二酸化炭素排出量は年1,175kgで、全国の一人当たり年1,265kgよりも少なくなっています。しかしそれでも、市民一人一人が2030年までにさらに年483kgを削減する必要があります。

削減を実現するには、小中学校の児童・生徒の皆さんとご家族をはじめ、約24万5千人(2025年現在)の市民全員で、まず日々の生活でできる環境に優しい取組を、一つ一つ進めていくことが求められています。

※本報告書における「二酸化炭素排出量」とその表記について:

温室効果ガスには二酸化炭素(CO₂)の他、メタンやフロンなどもありますがこれらを全て、二酸化炭素の重量(kgないしトン)に換算して集計します。単位は「二酸化炭素トン」(t-CO₂)または「二酸化炭素キログラム」(kg-CO₂)ですが、本報告書では省略して「トン」または「kg」と表記しています。また、1年間における一人当たりの二酸化炭素の排出量については、「kg/年・人」という単位を用いることとします。

2. 「かんきょうノート」によるこれまでの取組の経過

「かんきょうノート」は、本市が平成14年度に、市民の皆さまに二酸化炭素排出量を削減する「環境にやさしいライフスタイル(環境配慮行動)」を普及することを目的として始めたものです。

日々の生活の中で、「かんきょうノート」に記載された環境配慮行動に取り組んでもらい、取組の結果、どのくらい二酸化炭素の排出を削減できたか算出してもらいます。削減量を数値として確認することで環境配慮行動の効果を実感し、習慣として身につけることの重要性を意識してもらうことを目的としています。

自治会等での実践を経て、平成18年度からは環境教育の取組として、市内すべての市立中学校において取り組まれてきました。さらに、平成26年度からは、希望する小学校も対象に加え、現在まで取組が続いています。

令和7年度までの直近5年間の実施経過は、表2のとおりです。令和7年度は、中学校及び希望する小学校で実施し、取り組んだ人数は、3,564人(中学校3,421人、小学校143人)となりました。

表2 かんきょうノートの実施経過(直近5年)

年度	配布先	配布数	参加者数(回収率)
令和3年度	市立全中学校9校 参加希望の市立小学校3校	中学校 5,571人 小学校 374人 合計 5,945人	中学校4,338人(77.9%) 小学校 332人(88.8%) 合計4,670人(78.6%)
令和4年度	市立全中学校9校 市内全小学校20校(※1)	中学校 5,600人 小学校 1,890人 合計 7,490人	中学校4,104人(73.3%) 小学校応募総数710作品(※2)
令和5年度	市立全中学校9校 参加希望の市立小学校1校	中学校 5,669人 小学校 91人 合計 5,760人	中学校3,871人(68.3%) 小学校 73人(80.2%) 合計3,944人(68.5%)
令和6年度	市立全中学校9校 参加希望の市立小学校4校	中学校 5,366人 小学校 433人 合計 5,799人	中学校3,340人(62.2%) 小学校 382人(88.2%) 合計3,722人(64.2%)
令和7年度	市立全中学校9校 参加希望の市立小学校2校	中学校 5,515人 小学校 166人 合計 5,681人	中学校3,421人(62.0%) 小学校 143人(86.1%) 合計3,564人(62.7%)

※1 市立全小学校19校+私立聖センリア小学校の計20校

※2 令和4年度 小学校は「大和市気候非常事態宣言」のロゴマークの募集数

3. 令和7年度の実施状況

1) 中学校

中学校の実施状況は、表3のとおりです。市立全中学校9校で実施し、参加者数は1～3年生の 3,421人でした。令和7年度は、従来どおりの紙での回答に加え、Google フォームによる回答も選択できるようにしました。紙と Google フォームの回答を合わせた全体の回収率は、62.0%でした。

表3 中学校の生徒数と参加者数、回収率

No.	中学校名	生徒数(人)	参加者数(人)			回収率
			紙	Google フォーム	計	
1	大和中学校	784	0	438	438	55.9%
2	光丘中学校	915	735	0	735	80.3%
3	渋谷中学校	285	0	127	127	44.6%
4	つきみ野中学校	999	0	508	508	50.9%
5	鶴間中学校	436	375	0	375	86.0%
6	引地台中学校	613	0	243	243	39.6%
7	上和田中学校	356	0	197	197	55.3%
8	南林間中学校	778	677	0	677	87.0%
9	下福田中学校	349	0	121	121	34.7%
計		5,515	1,787	1,634	3,421	62.0%

生徒数は、令和7年5月12日現在の在籍数

2) 小学校

小学校の実施状況は、表4のとおりです。市立小学校2校が参加し、参加者数は143人、回収率は86.1%でした。

表4 小学校の児童数と参加者数、参加率

No.	小学校名	児童数(人)	参加者数(人)	回収率
1	大野原小学校	114	98	86.0%
2	引地台小学校	52	45	86.5%
計		166	143	86.1%

児童数は、申込時(令和7年6月16日)の在籍数

第2章 取組結果

1. 中学校・小学校の取組のまとめ

令和7年度の、中学校と小学校を合わせた取組結果は、表5のとおりです。

表5 中学校・小学校の取組結果

項目	参加者数(人)	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)	一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)
中学校	3,421	798,347	233.4
小学校	143	21,606	151.1
計	3,564	819,953	<u>230.1</u>

3,564人が取組を1年間続けた場合の二酸化炭素削減量は約820トンとなりました(1トン=1,000kg)。

1 ページに掲載したとおり、大和市の家庭において、2030年までに日々の生活で出る二酸化炭素排出量を市民一人当たり429kg減らす必要があります。

表1 大和市の「家庭部門」の全体と市民一人当たりの二酸化炭素排出量(再掲)

	2013年	2022年	2030年(目標)
大和市の「家庭部門」の 二酸化炭素排出量	324,940トン	285,670トン	175,467トン
人口(2030年は推計)	231,000人	242,986人	253,640人
市民一人当たり 二酸化炭素排出量	1,407kg	1,175kg	692kg

483kgの削減が必要ですが
そのうち230kgの削減となります

今回の3,564人の取組を、現在約24万5千人の市民がみんな1年間続けると、2030年までに大和市の家庭が減らす必要がある二酸化炭素483kgの半分近く(230kg)を減らすことになります。

今後さらに太陽光発電や電気自動車などの広まりにより二酸化炭素が減っていくことで、大和市の家庭の2030年目標は、十分達成できることとなります。

一人一人にとっては小さな取組でも、その取組が多くの人に広がることで、大きな力になり得ます。私たちのやまとを今後も受け継いでいくため、みんなで一緒に取り組んでいきましょう!

2. 中学校の取組結果

1) 取組項目と取組の評価方法

中学生版の「かんきょうノート」では、全生徒共通の10項目と、「自分でできる項目」を設定した生徒はそれらについても1週間チャレンジしてもらいました。全生徒共通の10項目の内訳は、表6のとおりです。

表6 中学生版「かんきょうノート」取組項目

No.	分野	内容	1年間実施した場合の 二酸化炭素削減量 (kg/年)
1	節電	見たい番組や動画がない時はテレビやスマホの画面を消す。	12
2	節電	使っていない照明はこまめに消す。	5
3	節電	冷蔵庫の無駄な開閉をなくす。開ける時間を短くする。	8
4	節水	手洗いや歯みがきの時は、蛇口をこまめに止める。	18
5	暮らし方	お風呂は間隔をあけずに入り、追いだきを減らす。	86
6	暮らし方	毎日の食事は残さず食べる。	42
7	暮らし方	水筒を持ち歩き、ペットボトルの飲み物は買わないようにする。	38
8	節電	夏は冷房、冬は暖房の設定温度を適正にする。	41
9	暮らし方	エコバッグを持ち歩き、レジ袋をもらわないようにする。	17
10	暮らし方	ごみは決められたとおりに分けて捨てる。	28
合計の最大			295

各取組項目を1年間実施した場合の二酸化炭素削減量を上記のとおりとし、「昨日までの一週間をチェック」と「今日から取り組んでみよう」の列に記入された日数をもとに1年間取り組んだ場合の二酸化炭素削減量を計算しました。

そして、「取組後の削減量」を評価するため、次のとおり「取組による改善率」を算出しました。取組をしたことによる効果を示すもので、「取組前の削減量」と比べ、「取組後の削減量」がどの程度改善したかを表しています。

取組による改善率 (%) =

{(「取組後の二酸化炭素削減量」－「取組前の二酸化炭素削減量」)

/「取組前の二酸化炭素排出量」}×100

2) 中学校 9 校の取組のまとめ

令和7年度の学校別の取組結果は、表 7 のとおりです。

表 7 学校別の取組前後の二酸化炭素削減量、改善率

No	中学校名	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1	大和中学校	103,813	106,767	237.0	243.8	2.8%
2	光丘中学校	142,625	168,330	194.0	229.0	18.0%
3	渋谷中学校	29,120	30,492	229.3	240.1	4.7%
4	つきみ野中学校	116,185	120,725	228.7	237.6	3.9%
5	鶴間中学校	73,517	85,813	196.0	228.8	16.7%
6	引地台中学校	55,934	57,453	230.2	236.4	2.7%
7	上和田中学校	45,036	46,125	228.6	234.1	2.4%
8	南林間中学校	136,580	154,108	201.7	227.6	12.8%
9	下福田中学校	27,565	28,534	227.8	235.8	3.5%
	計	730,375	798,347	213.5	233.4	9.3%

学年別の取組結果は、表 8 のとおりです。

表 8 学年別の取組前後の二酸化炭素削減量、改善率

学年	参加者数(人)	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	1,128	243,715	263,638	216.1	233.7	8.2%
2年	1,108	234,453	257,305	211.6	232.2	9.7%
3年	1,185	252,207	277,404	212.8	234.1	10.0%
	計	730,375	798,347	213.5	233.4	9.3%

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、全中学校の合計で 798,347kg、生徒一人当たりで約 233kg 削減されることとなり、9.3 パーセント分の改善となりました。

3) 各中学校の取組

(1) 大和中学校

大和中学校の取組は、表9-1のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で 106,767kg、生徒一人当たりで約 243.8kg 削減されることとなり、2.8 パーセント分の改善となりました。

表9-1 大和中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	164人	38,068	39,326	232.1	239.8	3.3%
2年	40人	10,036	10,167	250.9	254.2	1.3%
3年	234人	55,709	57,274	238.1	244.8	2.8%
全体	438人	103,813	106,767	237.0	243.8	2.8%

(2) 光丘中学校

光丘中学校の取組は、表9-2のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で168,330kg、生徒一人当たりで約 229.0kg 削減されることとなり、18.0 パーセント分の改善となりました。

表9-2 光丘中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	249人	53,794	59,229	216.0	237.9	10.1%
2年	244人	41,354	53,592	169.5	219.6	29.6%
3年	242人	47,477	55,509	196.2	229.4	16.9%
全体	735人	142,625	168,330	194.0	229.0	18.0%

(3) 渋谷中学校

渋谷中学校の取組は、表9-3のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で 30,492kg、生徒一人当たりで約 240.1kg 削減されることとなり、4.7 パーセント分の改善となりました。

表9-3 渋谷中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	42人	9,530	10,061	226.9	239.5	5.6%
2年	82人	19,043	19,811	232.2	241.6	4.0%
3年	3人	547	620	182.3	206.7	13.3%
全体	127人	29,120	30,492	229.3	240.1	4.7%

(4) つきみ野中学校

つきみ野中学校の取組は、表9-4のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で 120,725kg、生徒一人当たりで約 237.6kg 削減されることとなり、3.9 パーセント分の改善となりました。

表9-4 つきみ野中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	294人	65,974	68,326	224.4	232.4	3.6%
2年	189人	44,244	46,021	234.1	243.5	4.0%
3年	25人	5,967	6,378	238.7	255.1	6.9%
全体	508人	116,185	120,725	228.7	237.6	3.9%

(5) 鶴間中学校

鶴間中学校の取組は、表9-5のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で85,813kg、生徒一人当たりで約 228.8kg 削減されることとなり、16.7 パーセント分の改善となりました。

表9-5 鶴間中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	129人	24,159	28,977	187.3	224.6	19.9%
2年	106人	23,076	25,681	217.7	242.3	11.3%
3年	140人	26,282	31,155	187.7	222.5	18.5%
全体	375人	73,517	85,813	196.0	228.8	16.7%

(6) 引地台中学校

引地台中学校の取組は、表9-6のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で 57,453kg、生徒一人当たりで約 236.4kg 削減されることとなり、2.7 パーセント分の改善となりました。

表9-6 引地台中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	10人	2,528	2,591	252.8	259.1	2.5%
2年	94人	21,588	22,358	229.7	237.9	3.6%
3年	139人	31,818	32,504	228.9	233.8	2.2%
全体	243人	55,934	57,453	230.2	236.4	2.7%

(7) 上和田中学校

上和田中学校の取組は、表9-7のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で 46,125kg、生徒一人当たりで約 234.1kg 削減されることとなり、2.4パーセント分の改善となりました。

表9-7 上和田中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	7人	1,635	1,678	233.6	239.7	2.6%
2年	98人	22,828	22,760	232.9	232.2	-0.3%
3年	92人	20,573	21,687	223.6	235.7	5.4%
全体	197人	45,036	46,125	228.6	234.1	2.4%

(8) 南林間中学校

南林間中学校の取組は、表9-8のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で154,108kg、生徒一人当たりで約227.6kg削減されることとなり、12.8パーセント分の改善となりました。

表9-8 南林間中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	197人	39,875	45,154	202.4	229.2	13.2%
2年	239人	48,390	52,784	202.5	220.9	9.1%
3年	241人	48,315	56,170	200.5	233.1	16.3%
全体	677人	136,580	154,108	201.7	227.6	12.8%

(9) 下福田中学校

下福田中学校の取組は、表9-9のとおりです。

今回の取組により、一年間の日々の生活で出る二酸化炭素が、学校全体で28,534kg、生徒一人当たりで約235.8kg削減されることとなり、3.5パーセント分の改善となりました。

表9-9 下福田中学校の取組まとめ

学年	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)		一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)		取組による 改善率
		取組前	取組後	取組前	取組後	
1年	36人	8,152	8,296	226.4	230.4	1.8%
2年	16人	3,894	4,131	243.4	258.2	6.1%
3年	69人	15,519	16,107	224.9	233.4	3.8%
全体	121人	27,565	28,534	227.8	235.8	3.5%

4) 項目別の取組状況

かんきょうノートで取り組んだ10項目について、項目別の取組状況は、表10のとおりです。

各項目の「昨日までの一週間をチェック」と「今日から取り組んでみよう」に記入された全生徒の各日数を、7日すべて実施した場合の日数で割ることで達成割合を計算しました。

また、取組前後の割合を比較して、取組による「改善率」を算出しました。

網かけした項目は、達成状況が85%以上、または、改善率が10%以上の項目です。

どの項目も取組前から実践している人が多く、日頃から環境意識が高いことがうかがわれます。また、全ての項目で改善が見られ、取組により更に意識が向上したことがうかがえます。

項目別では、「使っていない照明はこまめに消す」や「見たい番組や動画がない時はテレビやスマホの画面を消す」、「毎日の食事は残さず食べる」の3項目で10%を超える改善が見られ、取組を通して参加生徒の行動が変わっていることがはっきりと分かります。一方、「エコバッグを持ち歩き、レジ袋をもらわないようにする」は毎日実践する機会がなかったこと、「お風呂は間隔をあげずに入り、追いだきを減らす」は本人と家族の入浴時間帯が異なること、「ごみは決められたとおりに分けて捨てる」については本人だけでは取り組みづらいことなどから、改善率が比較的低くなったものと思われます。

表10 項目別の取組状況

No.	分野	内容	取組前	取組後	改善率
1	節電	使っていない照明はこまめに消す。	66.6%	77.3%	16.2%
2	節電	見たい番組や動画がない時はテレビやスマホの画面を消す。	73.2%	82.1%	12.2%
3	節電	冷蔵庫の無駄な開閉をなくす。開ける時間を短くする。	78.1%	84.9%	8.7%
4	節水	手洗いや歯みがきの時は、蛇口をこまめに止める。	76.7%	83.9%	9.4%
5	暮らし方	毎日の食事は残さず食べる。	65.8%	73.1%	11.1%
6	暮らし方	エコバッグを持ち歩き、レジ袋をもらわないようにする。	81.0%	86.8%	7.1%
7	暮らし方	水筒を持ち歩き、ペットボトルの飲み物は買わないようにする。	67.8%	73.3%	8.1%
8	節電	夏は冷房、冬は暖房の設定温度を適正にする。	74.8%	81.5%	9.0%
9	暮らし方	ごみは決められたとおりに分けて捨てる。	71.2%	77.2%	8.3%
10	暮らし方	お風呂は間隔をあげずに入り、追いだきを減らす。	82.3%	88.2%	7.2%

5) 生徒の感想・コメント

「かんきょうノート」の取組を通じて気づいたことや感じたことなどを「感想・コメント欄」に記入してもらいました。主なものは、次のとおりです。

<知った・発見した>

- 気をつけることでこんなにも変わることがびっくりした。普段の生活では、あまり気をつけていないことや、分かっているけどめんどくさくなってやっていないことがあった、これを機に週7を目指したい。
- お風呂を間隔を開けずに入るだけでCO₂の排出量を桁違いに減らせることが分かった。
- 環境に関しては、気を使っていると思っていたけど、振り返ってみると意外とできてないことが多くて、驚いた。
- ひごろの小さな事でもそこを気にして取り組んでいけば、たくさん物を減らせる事が分かった。これを続けていけばもっとすごい事につながる事が分かった。
- 今まであまりこういうことを考えながら生活したことがなかったけれど、こうやって考えながら生活するのと考えて生活していないときとの差を感じることができた。だから、やっぱりこのような機会を大切に、自分のできる取り組みを見つけ、続けていくことが大切だと思った。
- こういう些細なことも地球温暖化につながっているとは知らなかったのでびっくりしました。
- やってみて思ったことは、自分は意外にエコな生活ができてなかったから改めてやってみて考えさせられた。

<こんなことを頑張った>

- なるべく日影で過ごし、冷房等控える。クーラーの温度は28℃にし、扇風機とあわせて使う。
- 前まではテレビを誰も見ていない時もつけていたけど最近ではだれも見ていない時は消すようになった。少し意識するだけで結果が大きく変わることが分かった。
- なるべく無駄な電気を使わないようにしたりゴミをしっかりと分別したりすると自分でもいい気持ちになった。これからも同じようにやらない日をゼロにできるようにしたい
- テレビを見てない時消すことを心がけようと思いました！

<実は習慣として実践できていた>

- 意識していなくても出来ていることが多かった。日常的にやっている事が節電につながっていた。
- 去年もチャレンジしていて、それを活かして今年は夏休みに取り組む前から、気を付けて過ごすことができていたと思いました。
- 普段からやっているものが多く、思っていたより楽だった。

<思ったほど難しくなかった>

- 案外取り組んでいる事多くて意外だった。水筒、エコバッグなど自分が持参するだけでCO₂が減らせることにおどろいた。持参することは簡単だからこれからも続けていこうと思った。
- 身近な物を少し意識するだけでCO₂排出量が減ると分かった。

- 少し決めただけで出来るが多かったから次も続けたい。

<難しかった・大変だった>

- エコは大変!!
- なるべく心がけようと思いつつ、なかなかせつやくできていなかったり、わすれたりしました。
- 1週間やってみて、はじめの1日は「簡単だな～」と思っていましたが、何日かやっていると、忘すれたり出来なかったりしてけっこう難しいと感じた。
- 続けることがこんなにも難しいのかと気づきました。
- いきなり行おうとしても、やるのをわすれてしまったりした。

<今後に向けて>

- 地球温暖化のことを知っているんなことにちよせんができました。これからもがんばってやっていきたいと思いました。
- このちょっとしたことをするだけで CO2 削減で地球温暖化をふせいだり、これを続けることで SDGs の目標をたっせいできるかもしれないのでこれからもつづけていきたいです。
- これからも色々な取り組みをして、環境にこうけんしたい
- 意識するとだんだんできるようになってきた。CO2 の排出量を減らすことを目標にこれからも取り組んでいきたいと思った。
- どの項目も少し意識するだけで直せるところだから、生活習慣にしていって、自分から環境を良くすることを心がけていきたいなと思います。
- これらの取り組みを一週間通してみても意外と身近な習慣一つで環境に影響を与えてしまうということに気づきました。これからも継続していき、より習慣づけれるように努力していこうと思います。

<その他>

- いがいとやっていた自分に拍手したい
- 一人ひとりの努力が、地球温暖化を防げるので、世界のみんなで力を合わせて、防げたら良いなと思いました。
- CO2 排出量を減らすには、一人ひとりの意識、そして小さなことにも目を配ることが大切だと思った。
- 改めて環境について考えるいい機会になりました。
自分の行動が環境のためになっていると思うと、なんだか誇らしいです。
- 節約、節水、節電などをする事で環境にも優しく、電気代などの料金も抑えられた
- 点数があることで目標の点数を決めたりして行うことができるのですごくやりやすく、今の環境問題に少しでも関わることができて良かった。

6) 家族の感想・コメント

「かんきょうノート」に取り組んだ生徒のご家族にも、取組を通じて気づいたことや感じたことなどを「ご家族のコメント欄」に記入してもらいました。主なものは、次のとおりです。

<がんばっていた>

- エコについてかんがえ使わない電気をこまめに消す事や水筒を持ち歩くなど積極的に取り組んでいました。
- エコバッグは以前から意識して持ち歩いていました。ゴミ捨ては、紙のリサイクルの日に、卒先して運んでくれました。
- 日頃から取り組んでいたことが多いですが、夏休みは特に意識して行動していたようです。
- 前向きな考え方で環境に貢献しようとしていて素晴らしいと思います。しっかりと自分のすべきことに熱意を持って取り組むことができている良いと思いました。

<がんばろう>

- ゴミの分別ができていない時もあります。気をつけてください。他にもできる事があるか考えてください。
- スマホは見ている時間が長いので、エコとは言えないと思いました。その他に関しては、きちんと守れていると思いました。地球を守る事への意識は、とても大切な事だと思うので、続けられるようにしたいです。

<これからも続けよう>

- わりと取り組んでいるとは思いますが、もっと出来ると思います。これからも意識して自分には何が出来るかを追求して行くと素晴らしいと思います。
- 環境問題に目を向けながら意識して生活することで小さな事からでも続けていけば変わっていくと思うので、この先も続けて行ってほしいです。
- 夏休みがおわっても、その後続けて上記の項目を意識し常にエコロジーな生活をおくっていただきたい。

<よい取組だと思う>

- とても良い取り組みでした。今後も家族全員で意識し、エコを心掛けていけたらと思います。
- 気にかけていなかった事があることに気づき、環境についてこれまで以上に広く意識を持つことはとても良いことだと思います。
- 大まかに環境について与える影響と考えると、難しいですが、項目がこまかく区切られていると普段から取り組んでいることが以外と多いのかと思いました。

<家族でも取り組みたい>

- どの項目も、普段の生活の中で自然とやっている行動ではあったが、今後は何故そういう行いをしているのか？CO2 排出を頭でも理解して続けて行って欲しいし、家族全員でも取り組みたいと思いました。

- 私自身も食材を腐らせてしまいロスにしてしまう事が多々ある事に改めて気づき意識していかななくてはと思いました。猛暑が続き、エアコンのフル稼働も気になります。なるべく節電を意識し、この異常気象を少しでも未来に残さないようにと思います。

<その他>

- 地球の温暖化についてしっかり考えられる1週間になったと思います。みんなが意識をもって取り組んでいけると良いです。
- この用紙が冷蔵庫に貼ってあるだけで、いつもより少し意識することができたと思います。これからもみんなが少しずつ意識を変えていけばよりよい暮らしになると思います。
- この気づきを日々の生活に生かして行ってほしいと思います。
- 温暖化についてわれわれ親世代から感じる事は昔より夏の暑さが本当に厳しい事になりました。これ以上ひどくならない事を切に願います。
- 環境への配慮がずいぶんと身に付いて来た様に思います。今後も引き続き意識を高めて生活して欲しいです。
- 今回、この様な活動(チャレンジ)を家族全員で意識出来ました。ちょっとした事から始めるのが大切だと実感しました
- 日頃から家族で ECO 生活をするように心がけていましたが、改めて今回のかんきょうノートに取り組んでみると、まだまだ環境に配慮しなければならないことが沢山あるのだと気づかされました。

3. 小学校の取組結果

1) 取組項目と取組の評価方法

小学生版の「かんきょうノート」では、10の項目に1週間チャレンジしてもらいました。項目の内訳は、表11のとおりです。

表11 小学生版「かんきょうノート」取組項目

No	分野	内容	1年間実施した場合の二酸化炭素削減量 (kg/年)
1	節電	テレビやタブレットを見ていないときは消す	12
2	節電	部屋の電気をつけっぱなしにしないでこまめに消す	5
3	節電	冷蔵庫の無駄な開け閉めをやめて、開けている時間も短くする	8
4	節水	水道を使うときは水を出しっぱなしにしない	18
5	節水	シャワーを使うとき、流したままにしない	4
6	暮らし方	好き嫌いをせず、食事を残さない	42
7	暮らし方	水筒を持ち歩き、ペットボトルの飲み物を買わない	38
8	節電	夏は28度、冬は20度をめやすに冷暖房の温度設定をする	41
9	暮らし方	買い物にはエコバッグなどを持っていき、レジ袋をもらわない	17
10	暮らし方	ごみは決められたとおりに分けて捨てる	28
合計の最大			213

各取組項目について、7日間毎日取り組めた場合を100%とし、取組ごとに達成率を算出しました。また、各取組項目を1年間実施した場合の二酸化炭素削減量を上記のとおりとし、達成率に応じ、削減できた二酸化炭素排出量を算出しました。

2) 取組のまとめ

令和7年度の学校別の取組結果は、表12のとおりです。最大で年213kg削減できる中で、約70%の削減を達成しました。

表12 小学校の取組結果

	参加者数	全体の二酸化炭素削減量 (kg/年)	一人当たりの二酸化炭素削減量 (kg/年)	達成率
大野原小学校	98	15,124	154.3	72.4%
引地台小学校	45	6,482	144.0	67.6%
計	143	21,606	151.1	70.9%

3) 項目別の取組状況

項目別の取組状況は、表13のとおりです。

「達成率」が70%を超えたもの、「一人当たりの二酸化炭素削減量」が上位4位までのものに網掛けをしました。

「冷蔵庫の無駄な開け閉めをやめて、開けている時間も短くする」、「水道を使うときは水を出しっぱなしにしない」など、日頃よくする行動について意識して実践した様子がうかがわれます。また、「ごみは決められたとおりに分けて捨てる」のように家族の協力を得て実施したと思われる項目も高い達成率を示しています。一方、「夏は28度、冬は20度をめやすに冷暖房の温度設定をする」については猛暑のため達成率が低くなったのではないかと考えられます。

二酸化炭素削減量では、「好き嫌いをせず、食事を残さない」、「水筒を持ち歩き、ペットボトルの飲み物を買わない」、「ごみは決められたとおりに分けて捨てる」、「夏は28度、冬は20度をめやすに冷暖房の温度設定をする」、「ごみは決められたとおりに分けて捨てる」の4つの項目は、いずれも削減効果が大きいことから、削減量に大きく貢献しました。

表13 項目別の取組状況

No	内容	達成率	1週間のうち取り組めた日数	一人当たりの二酸化炭素削減量(kg/年)
1	テレビやタブレットを見ていないときは消す	65.4%	3.4	9.2
2	部屋の電気をつけっぱなしにしないでこまめに消す	64.9%	3.5	4.6
3	冷蔵庫の無駄な開け閉めをやめて、開けている時間も短くする	75.1%	3.9	5.2
4	水道を使うときは水を出しっぱなしにしない	76.0%	4.0	15.8
5	シャワーを使うとき、流したままにしない	65.4%	3.4	18.3
6	好き嫌いをせず、食事を残さない	56.1%	3.0	24.3
7	水筒を持ち歩き、ペットボトルの飲み物を買わない	63.7%	3.3	22.0
8	夏は28度、冬は20度をめやすに冷暖房の温度設定をする	48.2%	2.7	21.8
9	買い物にはエコバッグなどを持っていき、レジ袋をもらわない	59.5%	3.2	8.5
10	ごみは決められたとおりに分けて捨てる	76.5%	4.0	21.3

4) 児童が感じたこと

「かんきょうノート」に1週間取り組んでみて感じたことを書いてもらいました。主なものは、次のとおりです。

<できた! がんばった!>

- 徒歩、自転車、電車で夏休みをすごしました。
- 水を出しっぱなしにしないように気をつけた。

<気づいた、意識するようになった>

- エアコンの温度を低すぎたりあつすぎたりしてるから注意しなきゃなって思った!
- いしきしてやるとよくできるように感じた。
- まだまだできていないところがあるからなおそうと思いました
- エコライフは、意外に難しかったです。
- 二酸化炭素をへらすためには簡単なことをやっていけば良いのだなと思った。
- 思ったよりかんたんだった。

<続けたい、がんばりたい>

- ふだんきにしていないからできているのとできていないもののさがすごく、これからもきをつけたい。ぜんぶ○にしたい。
- きらいな食べものをへらす
- 1週間取り組んでみて、エコライフは、いがいに楽だと分かり、これからもつづけたいと思いました。

5) 家族の感想

児童と一緒に「かんきょうノート」に取り組んだご家族にも、取組を通じて気づいたことや感じたことなどをご家族の感想欄に記入してもらいました。主なものは、次のとおりです。

<がんばっていた>

- たまに私がテレビを付けっぱなしにしてしまうと「消し忘れていたから、消しておいたよ!」と先に気づいてやっておいてくれる事が多く、とても助かりました。
- エコライフをする前は、電気をつけっぱなしにしたり、シャワーをずっと流していたり、冷蔵庫を何度も開けたりしていたけれど...意識して取り組むことで良いエコライフを送ることができたね!!
- いっしょうけんめいがんばっていました

<こんなことをやってみよう、これからも取り組もう>

- テレビのつけっぱなしはママもするので、お互い気をつけようね。これからも自分たちが気をつけて取り組めることは続けていこうね。
- 日々の生活の中でできていることと、できていない事が一覧化し、数値で見る事によりよく分かりました。経済的かつ地球にやさしい取組みなので家族全員で無理なく取組んでいきたいと思います。

<気づきや考えるきっかけになった>

- 普段の自分の生活を見直すよいきっかけになったと思います。このまま温暖化が進んだら、自分が大人になった時にどうになってしまうのか?ということにも目を向けてもらえたらと思います。
- 分かっているがなかなかできない事があるので、改めて環境問題を考える事ができ、子どもとも環境について、もう一度話し合い、家庭でもできる事をしていきたいと思います。
- エコライフを心がけるのは、とても大切なことですね。意識することが大事。
- 電気やテレビをよく消していました。日頃からやっていることを確認し、さらに何ができるかを考えていました。これからも一緒に何ができるかを考えていきたいと思います(母)

<その他>

- 取組としている様子はあるが、ムラがあるので努力して習慣付させるようにしたいと思います。
- 子どもがちゃんと真面目にやっていてこっちも嬉しいです

<コラム> 樹木の CO₂ 吸収量の算定について

小学校に配布した「令和 6 年度『かんきょうノート』学校別取組結果」では、一人当たりの二酸化炭素 (CO₂) 排出量をキログラムで表記するとともに、「木が一年に吸収する CO₂」を木の本数で示しています。

この本数は、国土交通省国土技術政策総合研究所の「都市緑化樹木の CO₂ 固定量の産出」ページ <https://www.nilim.go.jp/lab/ddg/naiyo/co2/co2.html> をもとに大和市で算定したものです。

同ページの「年間 CO₂ 固定量を計算してみよう」で、「全樹木」の「樹齢」30 年と 35 年の「年間 CO₂ 固定量」を計算し、その差を年数の 5 で割ることにより算定しています。

樹木の CO₂ 吸収量 (= 樹木の「CO₂ 固定量」の増加分) の詳しい計算方法や考え方については、林野庁の以下のページの「Q1 森林吸収量はどのように算定するのですか」をご覧ください。 https://www.rinya.maff.go.jp/j/sin_riyou/ondanka/con_5.html

4. 今回の見直しと今後の課題

1) 中学生版について

- 紙での回答の受け付け以外に、昨年度から Google フォームによる回答の受け付けを導入しました。紙の回収率が約84.0%であったのに対し、Google フォームの回答率は約48.0%でした。Google フォームの提出率は昨年度の43.5%よりも若干上がりました。デジタルサービスの利用により生徒にとっても回答が容易になることや集計作業の効率化が期待できる一方、紙での回答にも、毎日記入することで取組意欲につながることに、保護者も意識する等のメリットが考えられます。様々な要素を考慮し、学校の要望も反映しながら、効果的かつ効率的な実施方法を引き続き検討していきます。
- 学年ごとの地球温暖化に対する理解度の違いを考慮し、表面に掲載している啓発記事を学年ごとに違うものとしました。啓発記事については生徒本人のみならずご家族も読んでくださっているようで、家族コメントにも食べ物や衣類の環境とのかかわりについて、「知らなかった」という記述が見られました。
- 昨年度の平均削減量を参考に記載したところ、それを目標にして取り組んだ生徒も多かったようです。今後も、参加生徒が意欲をもって取り組める工夫を研究します。

2) 小学生版について

- 参加校は昨年度4校であったものが今年度は2校となりました。年度により参加校は増減していますが、出前授業で環境に関する啓発を行う「みどりの学校」については昨年度よりも多い5校からの実施の要望を受けています。夏休みに実施する「かんきょうノート」の参加校を増やす努力を継続する一方で、かんきょうノートに記載されているような啓発資料を学校で活用していただけるよう、幅広く利用の場を模索する必要もあると感じます。

令和7年度 市内小中学校における「かんきょうノート」の取組について
【大和市環境学習支援事業報告書】

令和7年11月

編集・発行：大和市 環境施設農政部 環境総務課 地球環境係
〒242-8601
神奈川県大和市下鶴間一丁目1番1号
TEL:046-260-5493・FAX:046-260-6281